

～第54回全国牛削蹄競技大会が開催されました～

去る10月24日（水曜日）、茨城県水戸市の財団法人農民教育協会・鯉淵学園農業栄養専門学校で、第52回農林水産祭参加第54回全国牛削蹄競技大会が開催されました。

競技大会当日は、各地区の予選会を勝ち抜いてきた選手24名が参集し、日頃錬磨した技術が披露されました。競技大会は、2種目の競技で行われます。

最初の競技は、削蹄判断競技です。牛を削蹄する前に、その牛に最も適した削蹄はどうあるべきかを判断する能力を競う競技です。

牛1頭を40分以内に観察し、その所見を昨年度から取り入れたマークシートに記入します。牛は偶蹄ですから、内蹄と外蹄の削蹄のバランスに留意しなければなりません。

削蹄判断競技が終わると、削蹄競技に臨みます。

牛の削蹄はなくてはならない重要な飼養管理技術の一つです。伸びた蹄を削るといっても、それほど単純な技術ではありません。偶蹄である牛は、内蹄と外蹄の2つの蹄が微妙にバランスを調整しながら体重を支えているため、蹄が伸びすぎた場合には、大変複雑な変形蹄となり易いのです。また、牛の場合、日ごろから肢を上げる習慣がないのに加え、特に変形蹄の牛は肢を上げるのを嫌いますから、選手にとっては、まず肢を上手に保定することが作業の大きなポイントとなります。削蹄競技の制限時間は40分で、肢を保定する杵場や道具を使わずに、牛1頭の削蹄を行い、その仕上がり状態の良否を競います。

～競技前日 選手・競技委員合同打合せ～



競技大会前日には、選手・競技役員が一同に会し打合せを行います。審査について注意事項等を伝える田口清審査委員長。



選手は防疫服・ブーツカバーを着用して競技で使用する道具を念入りに消毒します。

～全国牛削蹄競技大会当日～



開会式に整列する選手一同。



開会宣言を行う坂上和秋大会副会長。

今原照之大会会長を前に選手宣誓を行う福島県の中野目正明選手。



削蹄判断競技開始です。
選手は、牛の四肢や蹄をよく観察し、その牛の歩き方の特徴や削蹄部位等をマークしていきます。



削蹄競技開始です。制限時間は、四肢すべての蹄を削り、仕上げる時間も含めて40分間です。

競技に使うのは成牛で、体重は500kgにもなりますから蹄を削るために肢を持ち上げ、鎌型蹄刀（牛用の爪切り）を使っての作業は重労働です。

中央の写真は、削蹄剪鉗（牛用のニッパー）を用いて伸びている角質を削除しているところです。

この作業を行うと堅い角質がなくなり鎌型蹄刀で削りやすくなります。

また、牛が暴れて人や牛が怪我をしてしまうと大きな減点（場合によっては失格）になります。

制限時間内の慎重な作業が必要です。

～模範演技～



すべての競技が終了後、前回優勝の有働信宏さん（熊本県装蹄師会所属）による模範演技が行われ優勝者の技術を披露していただきました。

～削蹄研修会～



模範削蹄終了後、技術検討委員会委員の佐伯峰雄さん（広島県装削蹄協会）による、削蹄研修会が行われました。

ロープを使った保定方法やイージーカッターを巧みに使い、その牛にあった削蹄のポイントを詳細に説明していただきました。

～成績発表～



いよいよ成績発表です。発表は田口清審査委員長が行いました。

審査委員長から6位までの入賞者が発表され、最後に「最優秀賞は北海道牛削蹄師会の武田守選手です」との報告があると褒賞授与会場は大歓声につつまれました。

武田選手は平成19年度にも優勝しており、2回優勝するすばらしい偉業を成し遂げました。

総合成績

	氏名	所属
最優秀賞	武田 守	北海道牛削蹄師会
優秀賞	保坂 一洋	千葉県牛削蹄師会
3等賞	中野目 正明	福島県牛削蹄師会
4等賞	三部 正宏	茨城県装蹄師会
5等賞	武藤 稔貴	福島県牛削蹄師会
6等賞	深見 哲久	鹿児島県牛削蹄事業連絡協議会

部門賞

削蹄判断競技	浏上 裕	宮崎県牛削蹄師会
削蹄競技	宅見 慎吾	北海道牛削蹄師会

～褒賞授与式～



褒賞授与式は、競技会場と同じ鯉淵学園栄養専門学校で行いました。

農林水産大臣賞は別所智博農林水産省大臣官房審議官から北海道牛削蹄師会の武田守選手へ授与されました。



中央で最優秀賞（農林水産大臣賞）の
カップを手にする武田守選手と北海道
牛削蹄師会会員の皆さんです。